

資料1：沖縄島の主な干潟

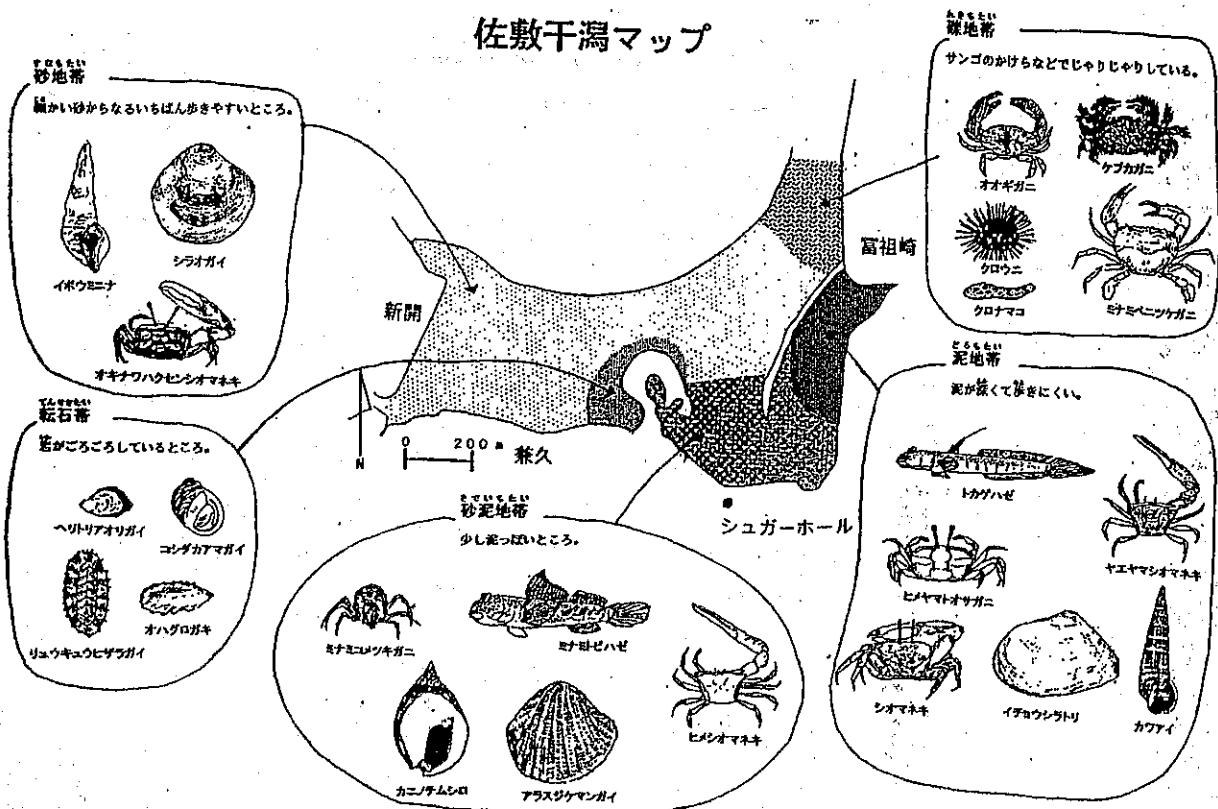
沖縄島の主な干潟

●は、埋め立てに消滅した干潟
 ()内は埋め立て面積(ha)
 ▲は、赤土汚染の著しい干潟

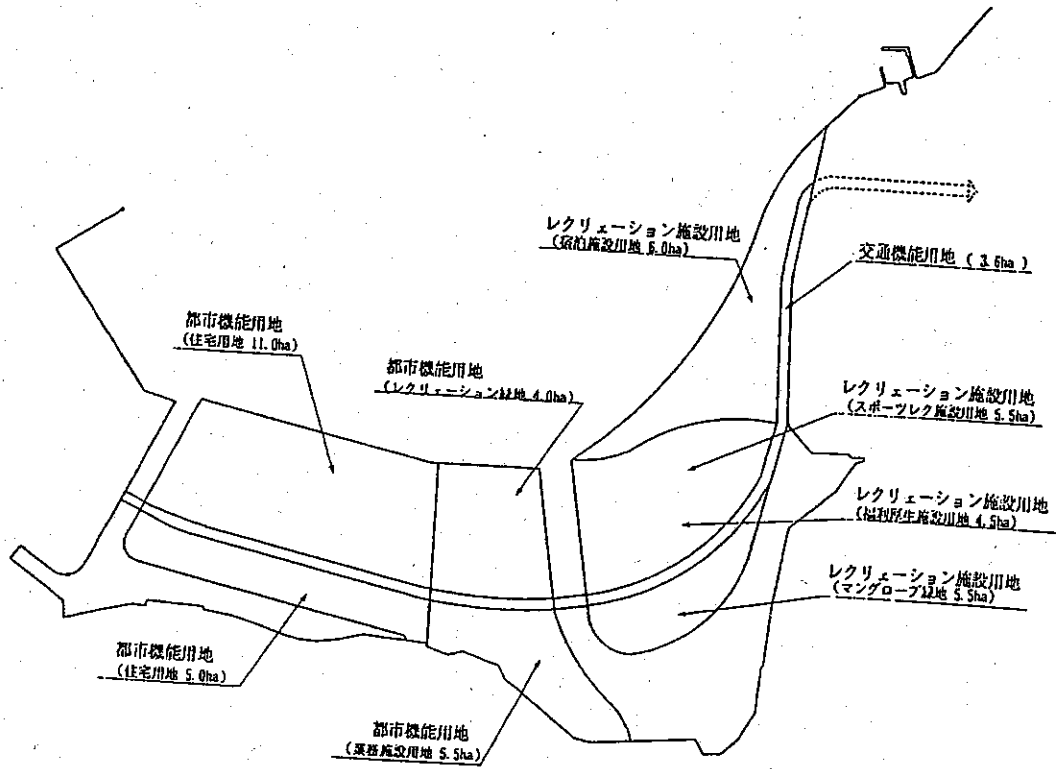


資料2：佐敷干潟マップ

佐敷干潟マップ

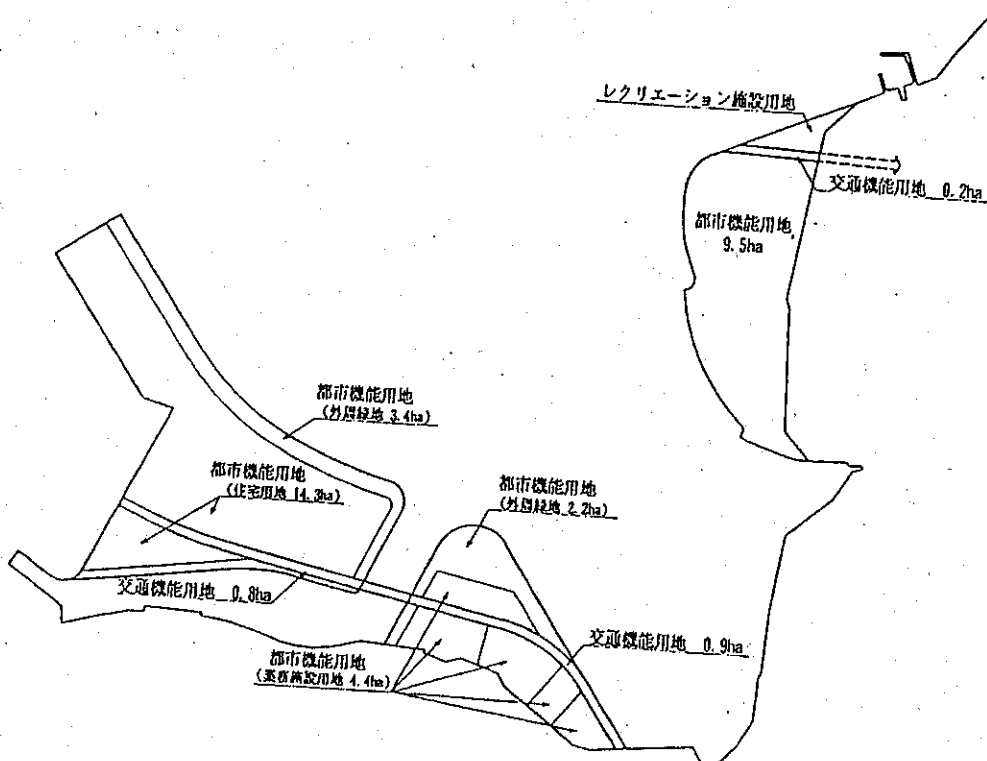


資料3-1 1990年の土地利用計画（沖縄県地方港湾審議会資料より）



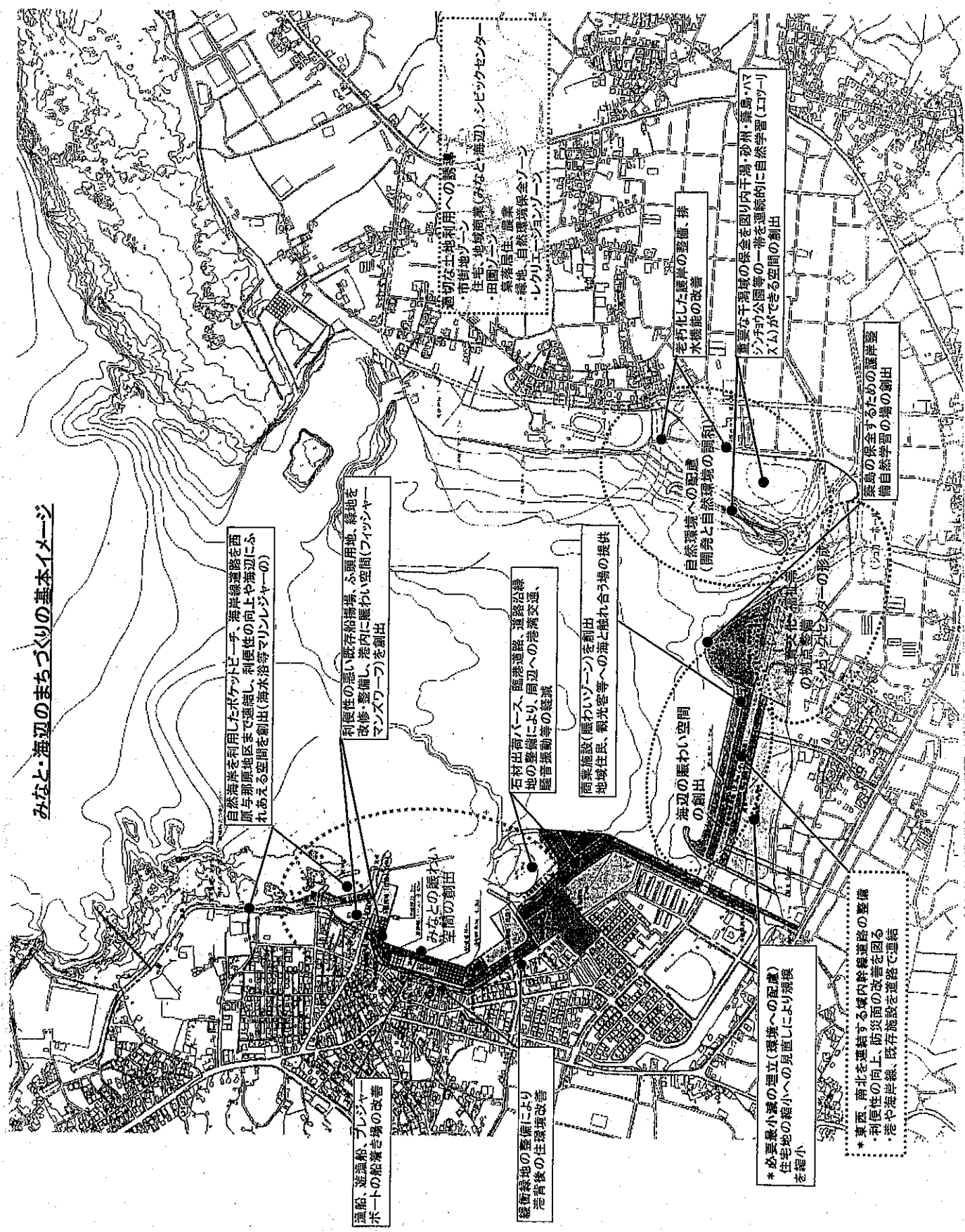
土地利用計画

資料3-2 1998年の土地利用計画（沖縄県地方港湾審議会資料より）



土地利用計画

資料4 現在の土地利用計画（佐敷町提供資料より）



みなと・海辺のまちづくりの基本イメージ

自然海岸を利用したポケットビーチ、海岸線道路を西原と那原地区まで延伸し、利便性の向上や海辺にふれあえる空間を創出(海水浴等マリッジゾーン)

利便性の高い既存船着場、公園用地、緑地を改修・整備し、港内に賑わい空間(ワイフンヤーマンスワーフ)を創出

石材出南バス、陸港道路、道路公線地の整備により、周辺への港湾交通、経営振動等の増進

商業施設(賑わいゾーン)を創出
地域住民、観光客等への海と触れ合う場の提供

海辺の賑わい空間の創出

漁船・遊漁船、レジャーボートの船着き場の改善

緩衝帯の整備により
港岸後の住環境改善

必要最小限の理立(経路への配慮)
住宅地の縮小への見直しにより景観を縮小

*東西、南北を連結する域内幹線道路の整備
利便性の向上、防災面の改善を図る
港や海岸線、既存施設を道路で連結

老朽化した護岸の整備、排水機能の改善
自然環境への配慮(開発と自然環境の調和)
重要な干潟域の保全を図り内干潟・砂州・家島・パンチボク公園等を一体的に自然的に自然学習(エコツーリズム)ができる空間の創出

家島の保全するための護岸整備
自然学習の場の創出

適切な土地利用への誘導
市街地ゾーン
住宅、地域商業(びなご・海辺)、レクリエーションセンター
田園ゾーン
農業居住、農業
レクリエーションゾーン
緑地、自然環境保全ゾーン